

June 12, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、小幅続伸 中国がインフラ投資の方針を示しリスク志向が改善**

11日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅ながら続伸。終値は108.52円と前営業日NY終値(108.45円)と比べて7銭程度のドル高水準だった。

中国政府がインフラ投資の資金調達を支援する方針を示したことで、アジアや欧州の株式相場が上昇。投資家のリスク志向が改善し円売り・ドル買いが先行した。21時30分過ぎに一時108.80円と日通し高値を付けた。

ただ、一時は180ドル超上昇したダウ平均が下げに転じると円買い・ドル売りが優勢に。米3年債入札が堅調だったと受け止められ、米10年債利回りが低下したことも相場の重しとなり、2時30分過ぎに一時108.44円付近まで下押しした。もっとも、アジア時間に付けた日通し安値108.35円は下抜けなかった。

なお、5月米卸売物価指数(PPI)は前年比で予想を下回ったものの、食品とエネルギーを除くコア指数は市場予想通りの結果となった。

ユーロドルは反発。終値は1.1326ドルと前営業日NY終値(1.1312ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ高水準だった。トランプ米大統領が「ユーロとその他の通貨はドルに対して下落するよう誘導されているため、米国はひどく不利な立場に置かれている。米政策金利はあまりにも高い、馬鹿げた量的引き締めに追い打ちをかけている」とツイートしたことを材料にユーロ買い・ドル売りが先行。米長期金利の低下に伴う買いも入り一時1.1337ドルと日通し高値を付けた。

なお、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長はCNBCとのインタビューで「トランプ米大統領はドル下落を呼び掛けていない」と述べた。

ユーロ円は4日続伸。終値は122.91円と前営業日NY終値(122.67円)と比べて24銭程度のユーロ高水準。欧州株や時間外のダウ先物の上昇を手掛かりに買いが先行し一時123.18円と本日高値を付けたものの、現物の米国株が失速すると伸び悩んだ。ドル円の下落につれた売りも出て一時122.74円付近まで上げ幅を縮める場面があった。

南アフリカランド円は堅調。同国経済に対する先行き不透明感は根強いものの、中国の投資促進策が好感されて、主要株式市場と同様に南ア株式市場も上昇。リスク回避の巻き戻しに伴う円売り・ランド買いが優勢となった。この日発表の4月南ア製造業生産が予想より強い内容となったこともランド買いを促し、一時7.41円と4日以来の高値を付けた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円 売買材料どちらにも反応薄、中国CPIに注目**

本日の東京市場のドル円は、引き続き方向感がなく108円台でのレンジ取引か。週末にメキシコ関税が回避され、昨日の上海総合指数は2.58%高で引けたが、ドル円の上昇は限られた。

一方、トランプ米大統領のドル安容認と捉えられる発言に対して、ドル売りの反応も限られたことを考えると、東京時間に大きくレンジを抜けるのは難しいと思われる。引き続き東京時間は、米中貿易戦争に関するサプライズがない限り小幅な動きにとどまりそうだ。

本日の本邦経済指標では、4月機械受注が発表される。株式市場が機械受注に対して反応した場合は為替市場にも影響を与える可能性がある。また、本日は米国の消費者物価指数(CPI)が発表される。NY時間の同経済指標発表時の動きが注目となる。

ドル円以外では、豪ドルの動きには警戒したい。本日は中国のCPIと生産者物価指数(PPI)が発表される。中国経済の影響を受ける豪州にとっては、経済指標の結果次第では豪ドルを動意づけるだろう。明日には豪州から注目度が高い雇用統計も発表される。

欧州時間に入るとドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁の講演が予定されていることで、ユーロが動意づくことになるだろう。

また、明日には英保守党の第1回党首選投票があり、本日は昨日に引き続き1922年委員会(英、保守党議員委員会)で質疑応答が行われていることで、ポンドは神経質な動きになりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 5月企業物価指数（予想：前月比0.0%／前年比0.7%）
- 08:50 ◎ 4月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比▲0.8%／前年比▲5.3%）
- 安倍晋三首相、イラン訪問（14日まで）

## &lt;海外&gt;

- 09:30 ◇ 6月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 10:30 ◎ 5月中国消費者物価指数（CPI、予想：前年比2.7%）
- 10:30 ◎ 5月中国生産者物価指数（PPI、予想：前年比0.6%）
- 17:15 ◎ ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 17:30 ◎ ラガルド国際通貨基金（IMF）専務理事、講演
- 18:00 ◎ デギンドス ECB 副総裁、講演
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：24.00%で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 20:00 ◇ 4月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比1.2%）
- 21:00 ◎ 4月インド鉱工業生産（予想：前年同月比0.8%）
- 21:00 ◎ 4月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比2.9%）
- 21:30 ☆ 5月米CPI（予想：前月比0.1%／前年比1.9%）  
☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比0.2%／前年比2.1%）
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 13日 02:00 ◎ 米財務省、10年債入札
- 13日 03:00 ◎ 5月米月次財政収支（予想：1855億ドルの赤字）
- ロシア（ロシアの日）、休場

13日

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 4-6月期法人企業景気予測調査
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

## &lt;海外&gt;

- 08:01 ◇ 5月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格
- 10:30 ◎ 5月豪雇用統計（失業率／新規雇用者数）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

11日 21:19 トランプ米大統領

「ユーロなどの通貨がドルに対して下落し、米国は大きな不利益を被っている」

「米国の政策金利は高過ぎるほか、馬鹿げた量的引き締めも加わった」

12日 01:54

「金・北朝鮮労働党委員長から素晴らしい手紙が届いた」

「米国は北朝鮮と素晴らしい関係であり、今後ポジティブなことが起きるだろう」

「金委員長は、核実験や長距離ミサイルの発射はしないという約束を守っている」

11日 17:39 レーン・フィンランド中銀総裁

「必要であれば依然として利下げや量的緩和を再開する可能性がある」

11日 18:16 茂木経済財政相

「米国時間で13日午後にライトハイザー米通商代表部(USTR)代表と会合」

11日 18:24 サンダース MPC 委員

「BOE(イングランド銀行)が早期に利上げする可能性はある」

11日 22:19 格付け会社フィッチ・レーティングス

「米国がトルコ経済制裁を発動させた場合、通貨リラのセンチメントに大きな影響を与えるだろう」

「トルコ第2四半期は前期比でマイナス成長、2019年は+1.1%成長を予想」

「トルコ政府の構造改革がしっかりと進展するかには懸念が残る」

「トルコ中銀が、為替相場の介入のために外貨準備を使用していたとしたら問題となるだろう」

11日 23:48 ユンケル欧州委員長

「トランプ米大統領とは緊密な関係」

「米国との通商協議は農業部門を除く」

「イタリアは何年もの間、過剰な財政赤字でリスクを冒している」

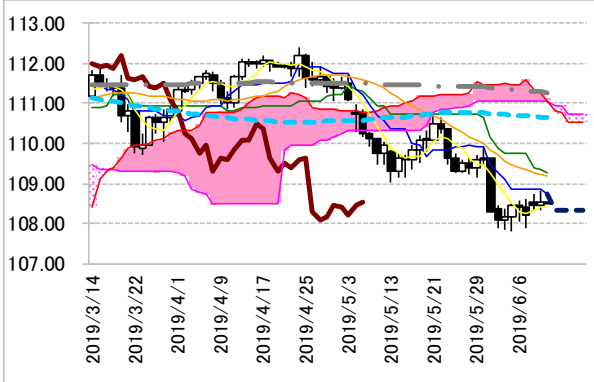
「イタリア経済の行方は定まっていない」

12日 03:17 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長

「トランプ米大統領はドル下落を呼び掛けている」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

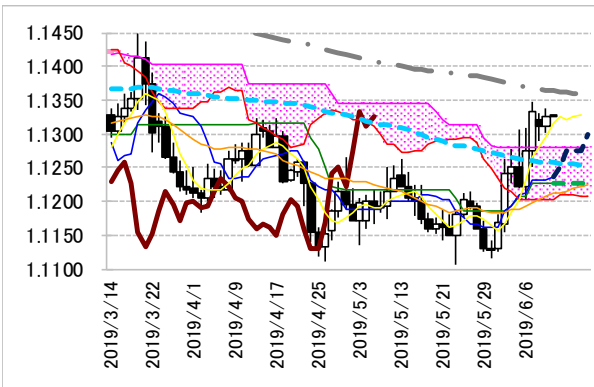


### <ドル円=低下が予想される転換線の上抜け試す局面へ>

上影小陽線引け。108.80円まで上昇したものの、一目均衡表・転換線 108.88円の目前で伸び悩んだ。

長めの上ひげをとまなう足型を形成した。目先の上値の重さの示唆といえる一方、下値を切り下げることなく、底堅さも感じられた。本日 108.72円へ低下する転換線は引き続き重しだが、現水準付近のレンジを維持するとみる。明日には 108.32円 で底打ちする見込みの転換線の上抜けを試す局面へ移行するだろう。

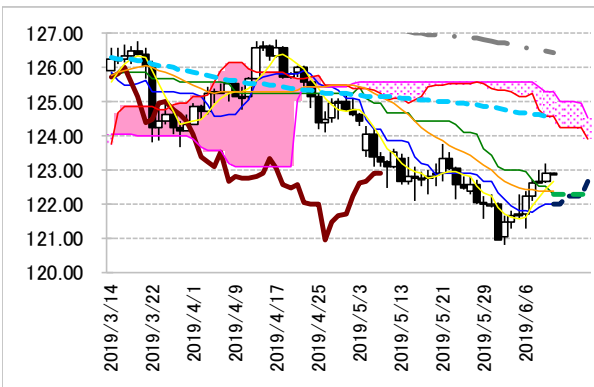
レジスタンス 2 109.57(4/24-6/5 下落幅の 38.2%戻し)  
レジスタンス 1 109.02(5/13 安値)  
前日終値 108.52  
サポート 1 108.11(ピボット・サポート 2)



### <ユーロドル=200日線を試す流れに>

陽線引け。下値に一目均衡表・雲のサポートを控えるなか、目先のすう勢を示す短期・5日移動平均線付近で下げ渋る底堅さを維持した。再び上値をトライする流れにある。1.1364ドル前後で推移する 200日移動平均線を試すことになろう。低下中の同線は抵抗になり、付近でいったん伸び悩むかもしれない。

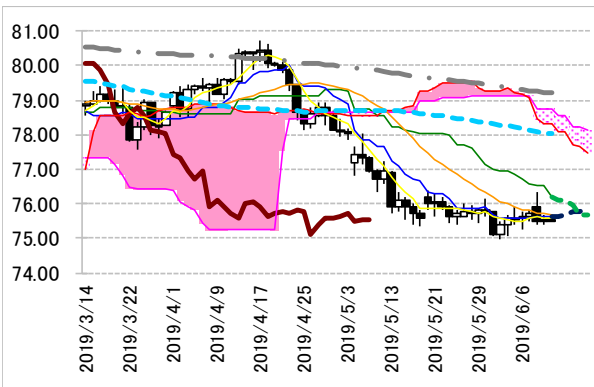
レジスタンス 1 1.1364(200日移動平均線)  
前日終値 1.1326  
サポート 1 1.1280(日足一目均衡表・雲の上限)



### <ユーロ円=基準線が底打ち、下支えに>

上影陽線引け。5月23日以来、約3週間ぶりに123円台を回復した。しかし、低下中の一目均衡表・基準線を上回った同水準では押し返されやすく、目先の上値の重さを示唆する上ひげをとまなう足型が続いている。だが、基準線は本日 122.26円まで低下したところで底打ちする公算。下支えとなるほか、一目・転換線も同線をやがて上回りそう。相場の下値切り上げに寄与することになる。

レジスタンス 1 123.74(5/21 高値)  
前日終値 122.91  
サポート 1 122.26 日足一目均衡表・基準線)



### <豪ドル円=上昇傾向にある転換線からの下放れ想定せず>

小陽線引け。週明け一目均衡表・基準線に近づいたものの伸び悩んだ。その後は一目・転換線 75.64円前後へ下押しした。75円後半で低下中の 21日移動平均線付近の戻りの重さもあって、転換線を下回る時間帯が目立つ状態にある。だが、緩やかに戻す傾向にある同線から、大きく下放れることはないだろう。転換線とともに水準をゆっくり切り上げ、基準線をこなし戻す展開を想定する。

レジスタンス 1 76.18(日足一目均衡表・基準線)  
前日終値 75.55  
サポート 1 74.97(6/3 安値)

